

いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”



大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらともに立ち向かう姿を追いました。



わたしはあなたの味方やで! 現在、求められている“居場所”の原風景



「こどもの里」の取り組みを通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「こどもの里」に関心を抱き、関わり、取材を始めてから足かけ7年、いま、初監督作品として本作を完成させました。音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いが詰まったSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたたく包み込みます。めまぐるしく移り変わる現代社会のなかで、子どもたちを巡る環境も急激に変化している今、あらためて注目されている「こどもの里」の“取り組み”が、これから歩む私たちに問いかけるものとは——？

「こどもの里」とは？

1977年設立の「子どもの広場」を前身とし1980年に現在の場所で「こどもの里」を開設。以後、子どもたちの遊び場であると共に、各家庭のケースに応じた短中期的な宿泊機能、長期的な養育をおこなう里親としての機能を持つ。

子どもたちの遊びと学び生活の場です

誰でも利用できます。
こどもたちの遊びの場です。
お母さん お父さんの休息の場です。
学習の場です。
生活相談 何でも受け付けます。
教育相談 何でもききます。
いつでも宿泊できます。
緊急に子どもが一人ぼっちになったら…
親の暴力にあったら…
家がいやになったら…
親子で泊まるどころがなかったら…
土・日・祝もあいてます
利用料はいりません



さとにきたらええやん

監督・撮影：重江良樹 音楽：SHINGO★西成 プロデューサー・構成：大澤一生 編集：辻井游 音響構成：渡辺丈彦
制作協力：神宮良輔（ふとっちょの木）、五十嵐美穂、上田昌宏、吉川諒 機材協力：ビジュアルアーツ専門学校大阪
特別協力：小谷忠典 助成：会文化庁文化芸術振興費補助金 企画：ガラフィルム 宣伝・配給協力：ウッキー・プロダクション
製作・配給：ノンデライコ 2015/日本/100分/カラー/-16:9/5.1ch/DCP

www.sato-eeyan.com

fb.com/satoeeyan777 @sato_eeyann

映画をとおして人権を考える（入場無料）

とき 平成30年2月11日（日）

13:30～15:30（開場13時）

ところ コムズ5階大会議室

主催 NPO法人「同和問題を考える市民の会（D o）」

共催 松山市人権教育推進協議会

お問合せ先 D o事務局（高松）080-6394-6924

メールアドレス 11715984@ezweb.ne.jp